

大学の世界展開力強化事業  
(平成24年度採択)  
平成27年度フォローアップ結果について

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会  
平成27年9月4日(金)  
独立行政法人 日本学術振興会

## ■フォローアップの目的

「大学の世界展開力強化事業」の適正な事業管理を行うとともに、各大学における円滑な事業実施の支援、事業成果の還元のため、毎年度各大学の取組の進捗状況を確認するフォローアップを行う。

【参考：大学の世界展開力強化事業公募要領（抜粋）】

### 6. その他

#### (2) 事業の評価等

毎年度のフォローアップ（後述の「中間評価」実施年度は除く。）、支援開始から3年目に平成25年度までの取組状況に関する中間評価、支援終了後（支援開始から6年目の平成29年度）に支援期間全体の実績に関する事後評価を実施し、毎年度のフォローアップ及び中間評価の結果は、補助金の配分に勘案されるとともに、事業目的、目標の達成が困難又は不可能と判断された場合、事業の中止も含めた計画の見直しを行うことがあります。

また、評価等については、委員会で定める評価方法、基準等に基づいて行われます。

## ■ スケジュール

- ・平成27年5月21日  
フォローアップ実施について文部科学省から各採択大学に通知
- ・平成27年7月7日～7月9日  
各採択大学からフォローアップ調査票の提出
- ・平成27年9月4日  
大学の世界展開力強化事業プログラム委員会にフォローアップ結果の報告
- ・平成27年9月  
フォローアップ結果の公表

## ■フォローアップの総括

平成24年度に採択された14件のプログラムについて、採択時の構想の各観点における進捗状況、特記すべき事項や構想時に設定した達成目標に対する平成26年度実績(派遣・受入の学生数)等のフォローアップを行った。

各プログラムの取組、課題等や学生交流の進捗状況を見ると、それぞれのプログラムの目的や特色等を反映した取組が行われている。特に、海外連携大学と協力して、各大学における単位取得から事業を発展させ、ダブルディグリーを開始した事例が見受けられる。一方で、新たな課題や問題点も浮上しており、各採択大学はその対応や解決に努めている。

事業全体の交流学生の実績を見ると、平成26年度は派遣・受入いずれも目標を上回っており、事業の最終年度(平成28年度)に向けて、数値目標の達成が見込まれる。

今後も、本事業の趣旨に則り、各プログラムが更に充実し、成果を上げられることを期待する。

## 1. 取組の進捗状況

「大学の世界展開力強化事業(平成24年度採択)平成27年度フォローアップ調査票」(以下、調査票とする)による各採択大学からの回答に基づき、下記①～④の各観点における取組内容の進捗状況について、抽出・整理を行った。

- ①交流プログラムの内容
- ②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成
- ③外国人学生の受入れ及び日本人学生の派遣のための環境整備
- ④構想の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

## ①交流プログラムの内容

(申請区分Ⅰ:東京医科歯科大学)

国内の採択大学と同時期にベトナムに学生派遣をし、合同で学生交流プログラムを実施したことで、国内のネットワークを拡大できた。

(申請区分Ⅰ:京都大学)

平成26年3月に本学と海外連携大学との間で締結したダブルディグリー協定書に従い、平成26年度から2年課程ダブルディグリープログラムを開始した。

(申請区分Ⅱ:名古屋大学)

本プログラムの事前・事後学習、ASEAN留学への動機づけ、誘引と為す新たな試みの一環として、平成26年度後期に学部生と大学院生対象の共同教育科目2科目を新規に開設した。本プログラム参加部局の諸分野を横断的に学習できるようオムニバス形式を採用し、本プログラム参加部局の全学生が履修できるよう開講した。

(申請区分Ⅱ:九州大学)

受入プログラム実施時には、派遣プログラムへ参加予定の本学学生と、受入学生との合宿形式のプログラムを取り入れ、強固な人間関係を構築しながら能動的に共に学び合うものとして設計した。このことから、本学学生の派遣プログラム実施時には、受入プログラムに参加した提携校学生が主体的に共同セミナーやヘリテージツアーを企画、実施するなど、好循環を得、確実な成果を得た。

(申請区分Ⅱ:京都大学)

系統講義として224科目を取りまとめることで、本学のより多くの学生が交流プログラムへの関心を持ち、積極的に参加するための基盤を強化した。

## ②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

(申請区分Ⅰ:北海道大学)

本事業採択校である慶應義塾大学教授を講師として、オンラインによる授業運営に関するファカルティ・ディベロップメント(FD)ワークショップを開催し、最新の教育方法を学んだ。

(申請区分Ⅰ:九州大学、早稲田大学)

連携大学間で構成された委員会で成績の点検評価とそれに基づく改善、共同教材の開発、成績管理を統一して行っている。

(申請区分Ⅰ:明治大学)

アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを設定・公開し、学位授与に至るプロセスを明確にしている。

(申請区分Ⅱ:千葉大学)

プログラムの趣旨が十分に伝わったことで、単位相互認定に向けた対話が進んでおり、各海外連携大学と詳細を協議している。

(申請区分Ⅱ:名古屋大学)

国際機関・産業界から外部評価委員を招へいし評価・質保証委員会を開催し、単位互換等に関する議論及び質疑応答を行った。

(申請区分Ⅱ:九州大学)

外部評価委員による交流参加学生への面談を実施するとともに、実際のショートターム交流受入プログラムの視察も得た。評価委員会から評価文書によるフィードバックを受けた。

(申請区分Ⅱ:京都大学)

海外連携大学を招いてサマースクール及びスプリングスクールを開催し、海外連携大学との双方向での交流強化、SENDのための教育法開発に努め、期待通りの成果をあげた。

### ③外国人学生の受入れ及び日本人学生の派遣のための環境整備

(申請区分Ⅰ：北海道大学)

本学に設置したセントラルオフィスと各海外連携大学に設置したリエゾンデスクが連携し、学生派遣・受入に必要な手続を行うとともに、安価な宿泊施設の確保、語学(日本語、現地語)授業の提供等に関する支援を行った。

また、学生に対する就職支援の一環として、日本企業のインドネシア駐在員事務所で働く本学同窓生と交流する機会を提供した。

(申請区分Ⅰ：東京医科歯科大学)

外国人学生受入時には、留学生の大学院生を国際交流支援員として採用し、受入学生に対するフォローを行った。学生引率として来日する外国人教員には、本学を卒業した元留学生を優先し、学習面だけでなく生活面にも目を配れるように配慮した。

(申請区分Ⅰ：慶應義塾大学)

本学で正式に学生として受け入れた履歴がわかるよう、これまで大学院生に限り利用できた協定学生制度を学部生も対象となるように改訂し、受入環境を整備した。

(申請区分Ⅱ：千葉大学)

特定の関係者だけが運営できる体制ではなく、他学部(他大学)に敷衍できる形を目指し、職務内容の体系化を進めている。

(申請区分Ⅱ：早稲田大学)

派遣学生に対しては、海外でのトラブルに対する24時間体制のサポートデスクを開設し、受入学生に対しては国内での治療費キャッシュレスサービスや電話による医療通訳サービスを実現した。



## ④構想の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

(申請区分Ⅰ:東京大学)

シンポジウムを開催し、大学の国際化における本事業の意義及び貢献について国内外に広く情報発信すると共に、その成果の普及に努めた。

(申請区分Ⅰ:○神戸大学、大阪大学)

Facebook上に本プログラムのページも開設し、意見・情報交換の場として積極的な活用を目指している。

(申請区分Ⅰ:○愛媛大学、香川大学、高知大学)

公開セミナーを開催し、内容をパンフレットにとりまとめ、協力者、地域・大学関係者、企業等に配布している。

(申請区分Ⅱ:○九州大学、早稲田大学)

プログラム期間中に集中的なディスカッション・プレゼンテーションの訓練を組むことで、学生の英語での発表に対するハードルを下げる事が出来た。

(申請区分Ⅰ:明治大学)

産学連携については、日系企業のグローバル人材獲得の取組への協力が成功を収め、アジア現地における企業戦略のあり方など、より広い範囲で情報共有を求められるようになった。

(申請区分Ⅱ:京都大学)

派遣成果報告会と派遣説明会を開催し、あわせてポスター・ちらし・ホームページによる広報を行い、学内に対する事業成果・計画の周知に努めた。

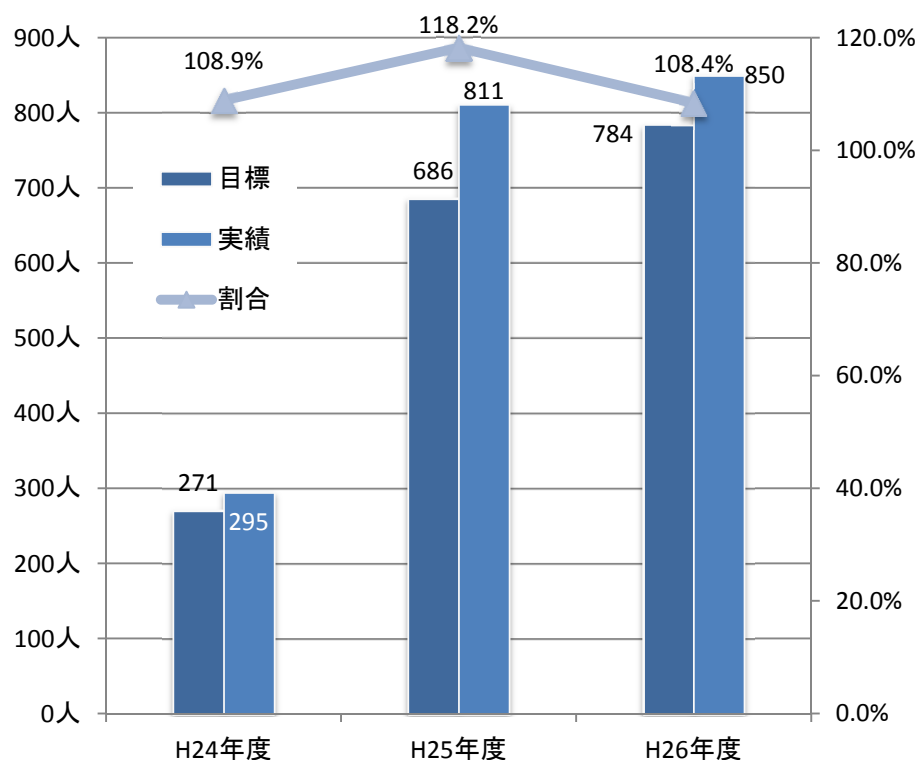
(申請区分Ⅱ:早稲田大学)

平成26年春学期に派遣された日本人学生により、自分たちの交流活動をまとめた活動報告書が作成され、11月には学外のシンポジウムで成果発表を行なった。いずれも学生たち自身の自発的な活動によるものであることは、特筆すべき点である。

## 2. 交流学生数の実績(1)

### (1-1) 交流プログラムで海外に留学した日本人学生数(派遣学生数)について【全体の状況】

毎年目標を上回っており、順調に推移している。また、単位取得を伴う派遣学生の割合も例年増加している。

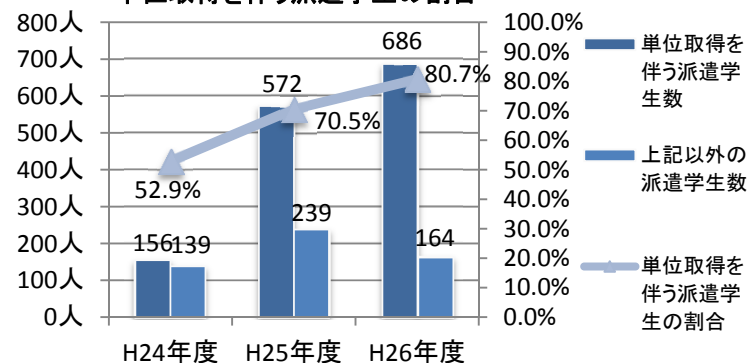


※SENDプログラム: Student Exchange - Nippon Discovery

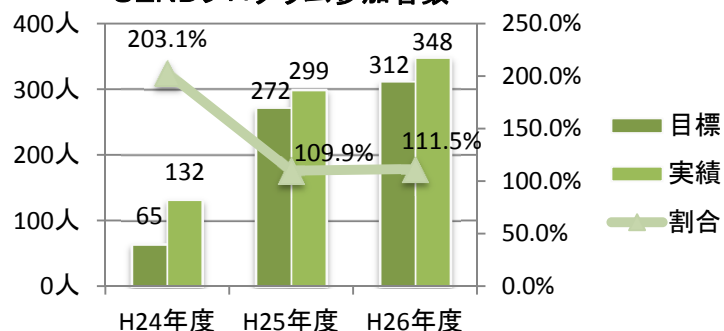
本事業のうち、日本人学生が留学先の現地の言語や文化を学習するとともに、現地の学校等での日本語指導支援や日本文化の紹介活動を通じて、学生自身の異文化理解を促すことを海外留学の目的の一つとして位置づけ、将来、日本とASEANとの架け橋となるエキスパート人材の育成を目指すもの

参考

単位取得を伴う派遣学生の割合



SENDプログラム参加者数

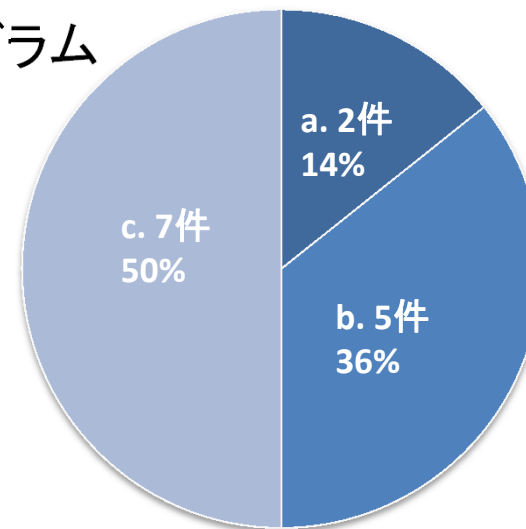


(1-2) 交流プログラムで海外に留学した日本人学生数(派遣学生数)について

【各プログラムの状況(平成24年度～平成26年度)】

達成目標に対する実績の割合が

- a. 200%以上だったプログラム
- b. 100%以上200%未満だったプログラム
- c. 100%未満だったプログラム



※プログラムごとの派遣学生数の詳細は別表1参照

### (1-3) 交流プログラム(派遣)の進捗状況について (各大学のコメントより抜粋)

#### 【平成26年度の達成目標に対し実績が上回っているプログラム】

(申請区分Ⅰ:東京大学)

当初計画を大きく上回る水準で東京大学の大学院生を派遣し、アジアの都市環境保健分野における最新かつ実践的な知見を習得する機会を提供することができていると考える。特筆すべきは、都市工学・国際保健学の学生が入り混じる形で各プログラムに参加し、派遣先での学びを共有していることである。こうした状況は、学生らが都市工学及び国際保健の両分野にまたがる人的ネットワークを構築することが出来ることを意味し、さらに両分野の融合的発展に向けての手掛かりとなる。その他、海外連携大学の学生との合同研修発表会を開催することなどとおして、本交流プログラムは、アジアにおける都市環境保健に関する問題を多面的なアプローチでもって解決することができる人材の育成という当初の目標に大きく近づいている。

(申請区分Ⅱ:京都大学)

平成26年度の派遣人数目標数83名に対して、170名を派遣し、所期の数値を達成した。うち日本国籍を有する正規学生は144名と大多数を占めており、日本人学生の海外での学習意欲を引き出すために、本プログラムが非常に有効であることが分かる。派遣地域別にみると、ASEAN地域が50名と、全体の約30%を占めている。従来、本学からASEAN地域への派遣は大学院アジア・アフリカ地域研究研究科など一部に限られていたが、本プログラムに採用されてから、全学を対象とするベトナム国家大学ハノイ校・チュロンコン大学・インドネシア大学への異文化交流教育派遣事業を全く新たに開始し、積極的な広報により、学部学生のASEAN地域への関心を引き出すことに成功した。

(申請区分Ⅱ:九州大学)

ショートターム派遣プログラムへ優秀かつ意欲の高い学生を提携校へ派遣するため、法学部に限らず、全学を対象に参加学生を公募し、学業成績、英語運用能力及び面接結果によって参加学生の選抜を行った。派遣にあたって、参加学生には、「国際文化遺産法特殊講義Ⅰ」及び「国際文化遺産法特殊講義Ⅱ」の受講に併せ、トレーニングプログラム、学内外講師による関連講義の受講を課し、学生の能力向上を図った。

### 【平成26年度の達成目標に対し実績が下回っているプログラム】

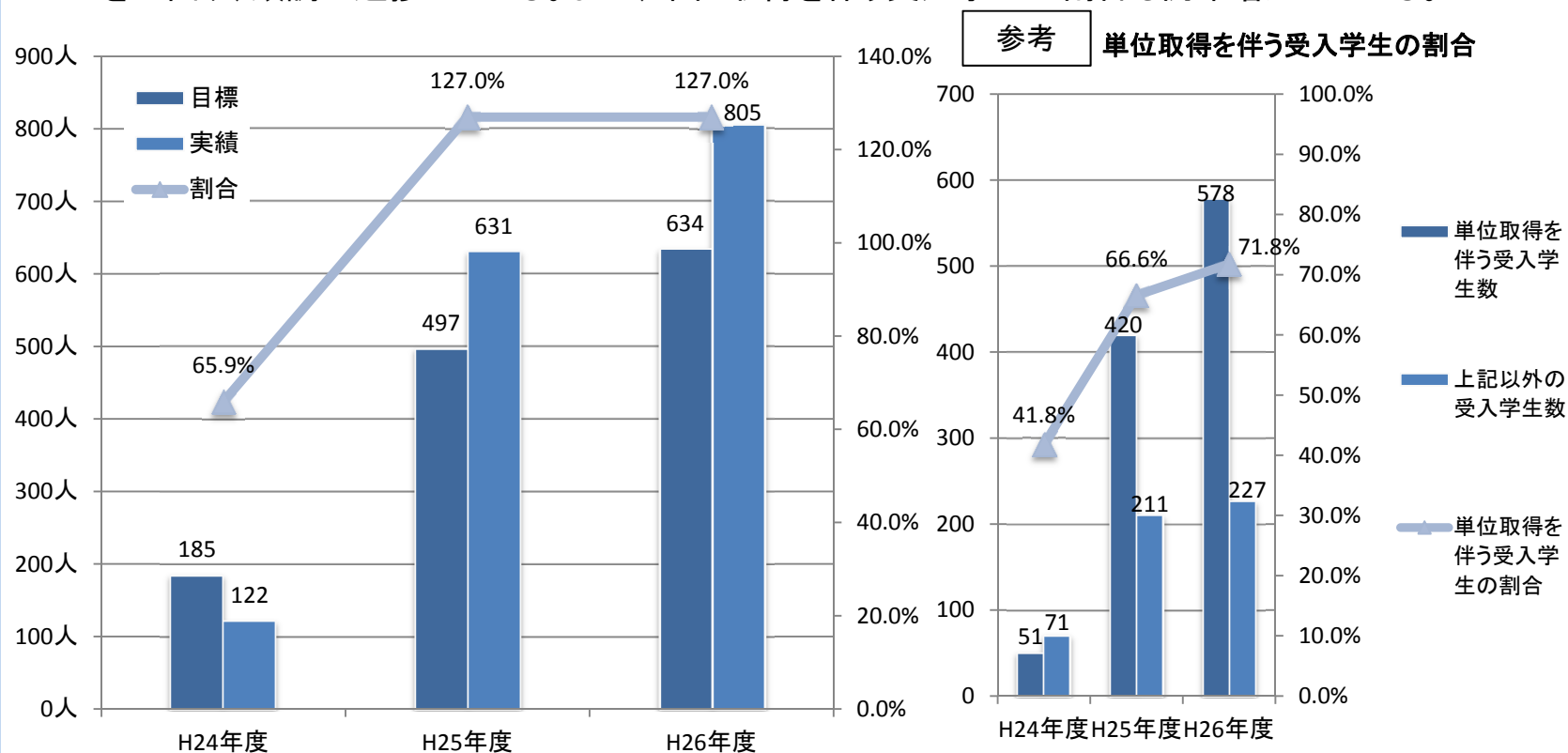
(申請区分Ⅰ:慶應義塾大学)

平成24年度・25年度に様々なパターンの学生派遣を試行したことにより、本学及び海外連携大学が共同で教育を行う形として、日本人学生がASEANへ派遣されるだけでなく、現地以外のASEAN学生も一緒に参加して教育を受けることのできる場を提供することが、本プログラムが目標とする専門性を持つグローバル人材の育成につながるものであるとの考えに至り、今後のフィールドワークはこの形を基にして実施を行う予定としている。また、ASEANで実施するフィールドワークについては、各ASEANパートナーが自ら主催者となって計画・実施してもらうことで、自身が得意とする分野で地の利も生かした充実した内容のフィールドワークをEBAプログラムから提供することができるようになると考え、平成26年度はこの形を試行し、多くのノウハウを得た。

## 2. 交流学生数の実績(2)

### (2-1) 交流プログラムで受け入れた外国人学生数(受入学生数)について【全体の状況】

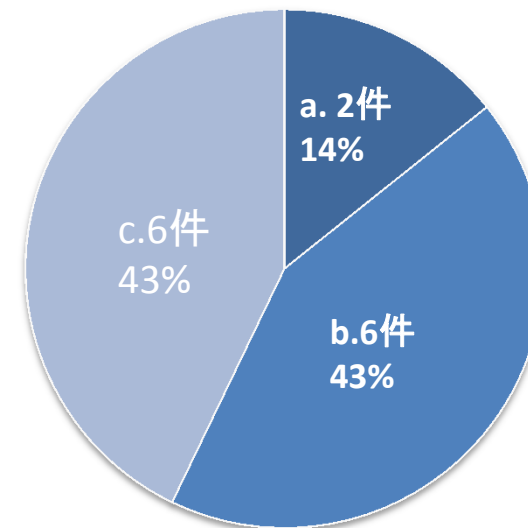
平成24年度は初年度ということもあり目標を下回っているが、2年目の平成25年度以降からは目標を上回り、順調に進捗している。また、単位取得を伴う受入学生の割合も例年増加している。



(2-2) 交流プログラムで受け入れた外国人学生数(受入学生数)  
について  
【各プログラムの状況(平成24年度～平成26年度)】

達成目標に対する実績の割合が

- a. 200%以上だったプログラム
- b. 100%以上200%未満だったプログラム
- c. 100%未満だったプログラム



※プログラムごとの派遣学生数の詳細は別表2参照

## (2-3) 交流プログラム(受入)の進捗状況について (各大学のコメントより抜粋)

### 【平成26年度の達成目標に対し実績が上回っているプログラム】

(申請区分Ⅰ:北海道大学)

コンソーシアム6大学全てが本学に学生を派遣し、本学取組5部局の全てが学生を受け入れた。本構想では、平成28年度末までに133名の受入を行なう計画(目標)であったが、平成26年末までにすでに130名の受入を行っている。これは、パートナー大学の本プログラムへの参加需要が高く、これに応えるため、本学予算1,440万円/年間を本プログラム推進のために確保したこと(組織的、資金的な取組)と、本学の教員および事務職員が一丸となり協力して学生の受入を促進したこと(人的な取組)により、計画以上の実績を達成することができたものである。

(申請区分Ⅱ:千葉大学)

千葉大学ツインクルプログラムにおけるASEAN各国からの留学生受入人数は、平成26年度は67名(95人月)であり、このうち19名はロングコースの受入となっており、特に理系の研究室において活発な共同研究を実施した。加えて、ASEAN各国におけるツインクルプログラムに対する期待と希望は非常に高く、各大学で選考倍率は10倍程度となっている。これまでの取り組みでは、受入学生と研究テーマや研究室環境は満足度が高い状況にあったが、今後、さらに受入留学生のための先進科学教育プログラムを精選化・高度化し、期待とニーズに見合うように鋭意改善を進めている。これらの改善取り組みにより、ASEAN各国からの千葉大学をはじめとして日本の諸大学の修士課程、博士課程への進学実績も上昇するものと考えられる。これらのことが好循環をさらに押し広げ、ASEAN各国との共同研究、大学院生の相互乗り入れ等により、日本の世界展開力はさら強化されるものと考えられる。



(申請区分 I : 神戸大学)

Elective Programのホームページを開設することにより、臨床各科のシラバスを明確化すると共に、私費による受入学生数の増加に努めている。上記の取組や派遣元大学からの要望もあり、今後も構想時の計画を上回るペースで受入学生数が増加することが見込まれている。そのため、受入学生一人当たりの経費の削減や滞在先の確保が重要であると考えられる。

受入学生の学業や日常生活の世話をする学生チューターの雇用や、国際交流サークルの立ち上げと交流会を開催することで、学生間交流の活性化を図っている。この取組を通じて、学生間による自発的な相互支援関係が構築されつつある。

### 【平成26年度の達成目標に対し実績が下回っているプログラム】

(申請区分 I : ○九州大学、早稲田大学)

目標達成した平成25年度においては、「サマースクール」と「スクールオンザムーブ」を日本で開催し受入人数の達成につなげることができたが、平成26年度は、「サマースクール」の開催がインドネシアだったこと、当初参加予定だった学生が不参加になったこと、予算縮小等が人数の増加につながらなかった。課題及び今後の展望として、目標数に達することができなかつたため、今後、参加者のキャンセルがでないよう連絡・周知を徹底し、プログラムの内容をさらに充実させつつ、インターンシップ等での受入を積極的に行い、プログラムの目標数達成に取り組む。平成26年度から「ダブルディグリープログラム」受入が実現できたので、ガジヤマダ大学、チュラロンコン大学との協定締結に取組み、引き続き受入ができるよう予算面を含めた体制を整えていく。

別表1:プログラムごとの派遣学生数

(単位:名)

申請区分	申請区分Ⅰ	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)												うち、SENDプログラム該当者数	
			目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う派遣学生数						左記以外の派遣学生数							
						(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上			
						目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績		
北海道大学	人口・活動・資源・環境の負の連環を転換させるフロンティア人材育成プログラム	H24	13	17	60.3	13	17	13	16	0	1	0	0	0	0	0	0		
		H25	30	3		30	3	12	0	18	3	0	0	0	0	0	0		
		H26	30	24		30	24	12	22	18	2	0	0	0	0	0	0		
		計	73	44		73	44	37	38	36	6	0	0	0	0	0	0		
東京大学	アジア都市環境保健学際コンソーシアムの形成	H24	3	10	340.9	0	0	0	0	0	0	3	10	3	10	0	0		
		H25	9	32		4	21	0	18	4	3	5	11	5	11	0	0		
		H26	10	33		8	24	0	18	8	6	2	9	2	9	0	0		
		計	22	75		12	45	0	36	12	9	10	30	10	30	0	0		
東京医科歯科大学	東南アジア医療・歯科医療ネットワークの構築を旨とした大学間交流プログラム	H24	18	19	135.1	5	17	4	15	1	2	13	2	13	2	0	0		
		H25	36	58		9	58	8	55	1	3	27	0	27	0	0	0		
		H26	40	50		14	50	13	47	1	3	26	0	26	0	0	0		
		計	94	127		28	125	25	117	3	8	66	2	66	2	0	0		
京都大学	「人間の安全保障」開発を旨とした日アセアン双方向人材育成プログラムの構築	H24	15	30	86.8	15	15	15	15	0	0	0	15	0	15	0	0		
		H25	30	18		30	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		H26	46	31		46	31	36	30	10	1	0	0	0	0	0	0		
		計	91	79		91	64	81	63	10	1	0	15	0	15	0	0		
○神戸大学、大阪大学	ASEAN諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成	H24	8	11	123.5	3	3	0	0	3	3	5	8	5	8	0	0		
		H25	21	24		16	24	10	18	6	6	5	0	5	0	0	0		
		H26	22	28		16	28	10	24	6	4	6	0	6	0	0	0		
		計	51	63		35	55	20	42	15	13	16	8	16	8	0	0		
○愛媛大学、香川大学、高知大学	日本・インドネシアの農山漁村で展開する6大学協働サービスマーケティング・プログラム	H24	31	2	83.4	31	1	25	0	6	1	0	1	0	0	0	1		
		H25	51	66		51	65	45	59	6	6	0	1	0	1	0	0		
		H26	69	58		69	52	56	46	13	6	0	6	0	6	0	0		
		計	151	126		151	118	126	105	25	13	0	8	0	7	0	1		
○九州大学、早稲田大学	地球資源工学グローバル人材養成のための学部・大学院ビルドアップ協働教育プログラム	H24	40	37	92.0	15	15	15	15	0	0	25	22	25	21	0	1		
		H25	60	50		35	44	35	44	0	0	25	6	25	6	0	0		
		H26	62	62		37	46	35	46	2	0	25	16	25	16	0	0		
		計	162	149		87	105	85	105	2	0	75	44	75	43	0	1		
慶應義塾大学	アジアの新出課題解決に向けたエビデンスベースアプローチ大学コンソーシアム	H24	20	7	19.5	5	0	5	0	0	0	15	7	15	7	0	0		
		H25	48	14		20	0	20	0	0	0	28	14	28	14	0	0		
		H26	60	4		33	0	30	0	3	0	27	4	27	4	0	0		
		計	128	25		58	0	55	0	3	0	70	25	70	25	0	0		
明治大学	日本ASEANリテラシーを重視した実務型リーダー育成プログラム	H24	50	17	120.4	45	17	40	10	5	7	5	0	5	0	0	0	0	0
		H25	75	139		75	111	65	99	10	12	0	28	0	28	0	0	20	18
		H26	110	127		110	118	100	106	10	12	0	9	0	9	0	0	40	30
		計	235	283		230	246	205	215	25	31	5	37	5	37	0	0	60	48
千葉大学	ツイン型学生派遣プログラム(ツインクル)	H24	40	39	92.1	40	39	40	39	0	0	0	0	0	0	0	0	40	39
		H25	80	76		80	76	76	76	4	0	0	0	0	0	0	0	80	76
		H26	96	84		96	84	88	84	8	0	0	0	0	0	0	0	96	84
		計	216	199		216	199	204	199	12	0	0	0	0	0	0	0	216	199
名古屋大学	ASEAN地域発展のための次世代国際協カリーダ養成プログラム	H24	12	11	112.1	0	0	0	0	0	0	12	11	12	11	0	0	12	11
		H25	52	56		10	23	0	17	10	6	42	33	42	33	0	0	16	16
		H26	52	63		10	63	0	56	10	7	42	0	42	0	0	0	16	18
		計	116	130		20	86	0	73	20	13	96	44	96	44	0	0	44	45
京都大学	「開かれたASEAN+6」による日本再発見—SENDを核とした国際連携人材育成	H24	16	54	199.0	0	12	0	12	0	0	16	42	16	42	0	0	8	41
		H25	110	192		40	46	39	44	1	2	70	146	66	145	4	1	72	106
		H26	83	170		42	52	39	49	3	3	41	118	39	113	2	5	56	100
		計	209	416		82	110	78	105	4	5	127	306	121	300	6	6	136	247
九州大学	スパイラル型協働教育モデル:リーガルマインドによる普遍性と多様性の均衡を目指して	H24	5	22	266.7	5	20	5	20	0	0	0	2	0	2	0	0	5	22
		H25	14	42		14	42	12	40	2	2	0	0	0	0	0	0	14	42
		H26	26	56		26	54	20	53	6	1	0	2	0	0	0	2	26	56
		計	45	120		45	116	37	113	8	3	0	4	0	2	0	2	45	120
早稲田大学	「日本語教育学」総合学習プログラムを通じた重層的・循環的人材育成事業	H24	0	19	81.1	0	0	0	0	0	0	19	0	19	0	0	0	19	
		H25	70	41		70	41	60	41	10	0	0	0	0	0	0	70	41	
		H26	78	60		78	60	68	59	10	1	0	0	0	0	0	78	60	
		計	148	120		148	101	128	100	20	1	0	19	0	19	0	0	148	120
総計			1,741	1,956	112.3	1,276	1,414	1,081	1,311	195	103	465	542	459	532	6	10	649	779

別表2:プログラムごとの受入学生数

(単位:名)

		取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)													
			目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う受入学生数						左記以外の受入学生数							
						(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上			
						目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績		
申請区分Ⅰ	北海道大学	人口・活動・資源・環境の負の連鎖を転換させるフロンティア人材育成プログラム	H24	13	18	178.1	13	18	13	18	0	0	0	0	0	0	0	0	
			H25	30	40		30	40	12	28	18	12	0	0	0	0	0	0	0
			H26	30	72		30	72	12	41	18	31	0	0	0	0	0	0	0
			計	73	130		73	130	37	87	36	43	0	0	0	0	0	0	0
	東京大学	アジア都市環境保健学際コンソーシアムの形成	H24	0	16	346.7	0	0	0	0	0	0	0	16	0	16	0	0	
			H25	5	5		5	5	0	5	5	0	0	0	0	0	0	0	
			H26	10	31		10	24	0	14	10	10	0	7	0	7	0	0	
			計	15	52		15	29	0	19	15	10	0	23	0	23	0	0	
	東京医科歯科大学	東南アジア医療・歯科医療ネットワークの構築を目指した大学間交流プログラム	H24	10	25	159.7	3	1	0	1	3	0	7	24	7	24	0	0	
			H25	21	36		9	6	6	6	3	0	12	30	12	30	0	0	
			H26	31	38		15	10	12	10	3	0	16	28	16	28	0	0	
			計	62	99		27	17	18	17	9	0	35	82	35	82	0	0	
	京都大学	「人間の安全保障」開発を目指した日アセアン双方向人材育成プログラムの構築	H24	15	0	90.2	15	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			H25	30	49		30	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
			H26	57	43		57	43	42	40	15	3	0	0	0	0	0		
			計	102	92		102	92	87	89	15	3	0	0	0	0	0		
○神戸大学、大阪大学	ASEAN諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成	H24	3	3	169.2	3	3	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0		
		H25	18	23		18	23	10	15	8	8	0	0	0	0	0			
		H26	18	40		18	40	10	32	8	8	0	0	0	0	0			
		計	39	66		39	66	20	47	19	19	0	0	0	0	0			
○愛媛大学、香川大学、高知大学	日本・インドネシアの農山漁村で展開する6大学協働サービスマーケティング・プログラム	H24	28	19	90.8	28	19	19	14	9	5	0	0	0	0	0	0		
		H25	37	39		37	39	28	33	9	6	0	0	0	0	0			
		H26	55	51		55	51	37	39	18	12	0	0	0	0	0			
		計	120	109		120	109	84	86	36	23	0	0	0	0	0			
○九州大学、早稲田大学	地球資源工学グローバル人材養成のための学部・大学院ビルドアップ協働教育プログラム	H24	25	22	76.7	0	0	0	0	0	0	25	22	25	22	0	0		
		H25	30	30		20	4	20	4	0	0	10	26	10	26	0	0		
		H26	48	27		38	9	35	8	3	1	10	18	10	18	0	0		
		計	103	79		58	13	55	12	3	1	45	66	45	66	0	0		
慶應義塾大学	アジアの新出課題解決に向けたエビデンスベースアプローチ大学コンソーシアム	H24	16	4	60.7	0	0	0	0	0	0	16	4	16	4	0	0		
		H25	36	19		15	0	15	0	0	0	21	19	21	19	0	0		
		H26	55	42		33	0	30	0	3	0	22	42	22	42	0	0		
		計	107	65		48	0	45	0	3	0	59	65	59	65	0	0		
明治大学	日本ASEANリテラシーを重視した実務型リーダー育成プログラム	H24	50	10	91.7	5	10	4	8	1	2	45	0	45	0	0	0		
		H25	75	86		75	83	50	66	25	17	0	3	0	3	0	0		
		H26	105	115		105	85	65	53	40	32	0	30	0	30	0	0		
		計	230	211		185	178	119	127	66	51	45	33	45	33	0	0		
千葉大学	ツイン型学生派遣プログラム(ツインクル)	H24	5	0	204.1	5	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0		
		H25	41	84		41	84	25	84	16	0	0	0	0	0	0			
		H26	28	67		28	67	12	67	16	0	0	0	0	0	0			
		計	74	151		74	151	37	151	37	0	0	0	0	0	0			
名古屋大学	ASEAN地域発展のための次世代国際協カリーダ養成プログラム	H24	0	0	100.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		H25	48	26		18	14	8	8	10	6	30	12	30	12	0	0		
		H26	48	70		18	61	8	54	10	7	30	9	30	9	0	0		
		計	96	96		36	75	16	62	20	13	60	21	60	21	0	0		
京都大学	「開かれたASEAN+6」による日本再発見—SENDを核とした国際連携人材育成	H24	20	5	192.8	0	0	0	0	0	0	20	5	18	5	2	0		
		H25	42	103		14	11	13	4	1	7	28	92	27	83	1	9		
		H26	49	106		24	38	23	30	1	8	25	68	25	68	0	0		
		計	111	214		38	49	36	34	2	15	73	165	70	156	3	9		
九州大学	スパイラル型協働教育モデル:リーガルマインドによる普遍性と多様性の均衡を目指して	H24	0	0	137.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		H25	20	35		8	6	0	5	8	1	12	29	12	29	0	0		
		H26	28	31		12	6	0	5	12	1	16	25	16	25	0	0		
		計	48	66		20	12	0	10	20	2	28	54	28	54	0	0		
早稲田大学	「日本語教育学」総合学習プログラムを通じた重層的・循環的人材育成事業	H24	0	0	94.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		H25	64	56		64	56	60	56	4	0	0	0	0	0	0			
		H26	72	72		72	72	68	69	4	3	0	0	0	0	0			
		計	136	128		136	128	128	125	8	3	0	0	0	0	0			
総計			1,316	1,558	118.4	971	1,049	682	866	289	183	345	509	342	500	3	9		